

薩摩郡内4肥育センターの肥育成績の比較

伊 東 繁 丸

緒 言

牛肉の輸入自由化は、輸入牛肉と国産牛肉との販売競争により、価格破壊をもたらしている。このため、子牛生産農家や肉用牛肥育農家は大きな打撃を受け、生き残り策を模索している。肉牛の生産コストを下げ、安定して牛肉を生産するには、種々の要因が関与すると考えられる。

そこで、本研究では薩摩郡内の4肥育センターの出荷成績を分析し、今後の肥育技術を高めるための基礎資料を得ようとした。

材料と方法

本調査は1993年3月から1994年11月出荷の薩摩郡内の4センター（宮之城：去勢172頭及び雌86頭，鶴田：去勢148頭及び雌109頭，薩摩：去勢366頭及び雌164頭，入来：去勢121頭及び雌47頭）の肥育出荷成績のデータを用い、センター間でこれらの比較を行った。

データ分析は導入時体重，素畜費（導入価格），肥育日数，1日当たり増体量（DG），肉質等級，枝肉売上額および差額（枝肉売上額－素牛価格）について行った。

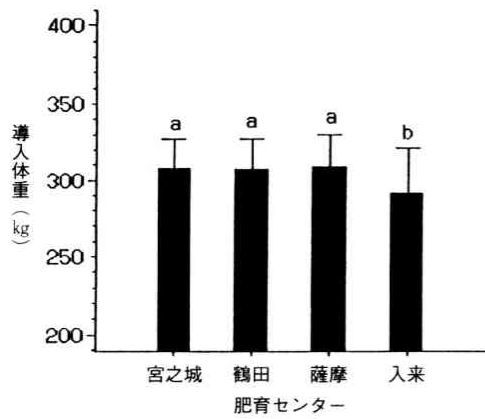
結果と考察

導入時体重は去勢及び雌とも，入来は軽く，他のセンターに比較して有意差が認められた（第1図，第2図）。去勢の素畜費は入来が高く，薩摩は低い，センター間の差は小さく，雌ではセンター間で有意差は認められなかった（第3図）。

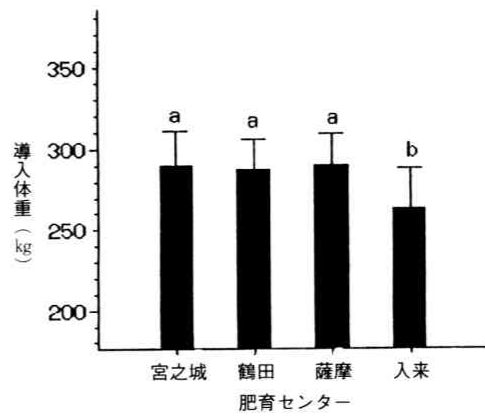
肥育日数は去勢および雌とも，入来が短い値を示した（第4図）。DGは入来が去勢および雌とも大きく，他のセンター間と有意差が認められた。これは肥育日数が短いこととも関係していると考えられた（第5図）。

肉質等級および枝肉単価については去勢，雌とも，センター間に有意差は認められなかった（第6図，第7図）。差額は去勢及び雌とも肥育センター間で有意差は認められなかった（第8図）。

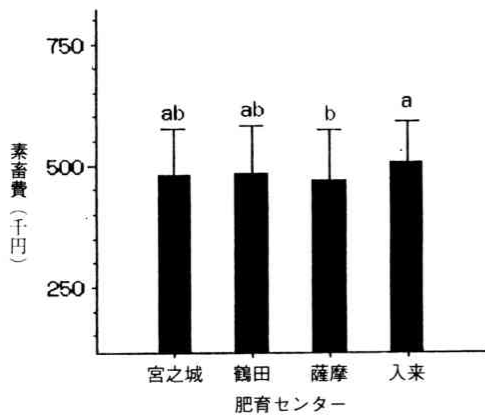
肥育日数が短いとDGは高くなるが，DGが高い時期に出荷することは肉質に影響することが大きいことから，差額にも影響を及ぼす可能性が推察された。また，小さい素畜を高額で導入することも差額を小さくする要因になると考えられた。



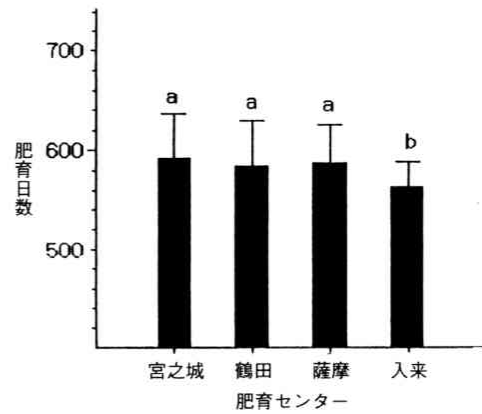
第1図 肥育センター別導入体重 (去勢)



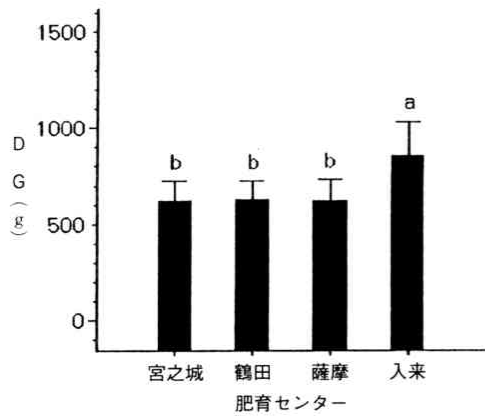
第2図 肥育センター別導入体重 (雌)



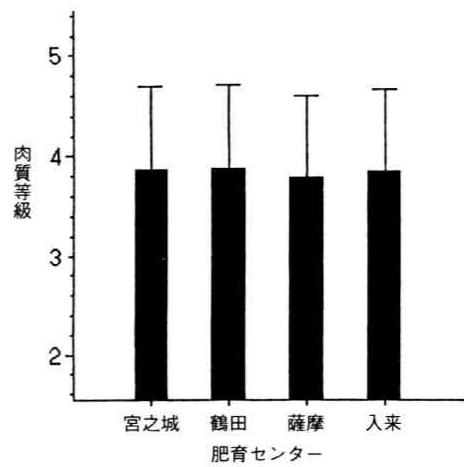
第3図 肥育センター別素畜費 (去勢)



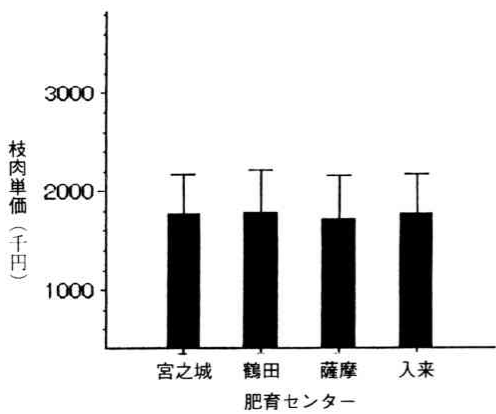
第4図 肥育センター別肥育日数 (去勢)



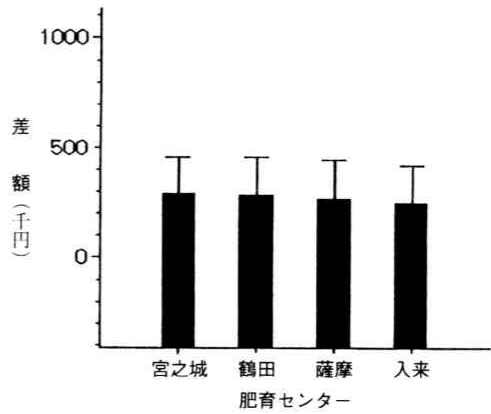
第5図 肥育センター別DG (去勢)



第6図 肥育センター別肉質等級 (去勢)



第7図 肥育センター別枝肉単価 (去勢)



第8図 肥育センター別差額 (去勢)